

令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立稲荷小学校
(令和3年1月29日作成)

1 学校教育目標 自ら学び (自分の考えをもち、よりよく判断し、行動できる子) 心豊かに (互いのよさを認め合い、高め合える子) たくましく (心と体が健康で、笑顔と希望にあふれる子)	
2 重点目標・努力目標 ・児童一人一人の学力の向上と自己肯定感・自己有用感の醸成 ・一人ひとりを大切にする生徒指導の充実 (いじめ撲滅、不登校0、生活規律の確立) ・健康・体力づくりの充実 (体育授業の充実) ・落ち着いたある教育環境の整備充実 (安心・安全な教育環境) ・地域に根ざした教育の推進 (学校運営協議会の充実)	3 前年度の成果と課題 成果 ○ICTを活用したり、課題やまとめの色を統一したりし、視覚においてユニバーサルデザイン化が図れた。また、全学級において、黒板の前面に掲示物を貼らないなどし、児童が集中力して学習に取り組めるようにした。 課題 ●指導内容の精選を行い、地域の人材をより活用できるようにする。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○児童の実態をふまえた学校経営方針について繰り返し共通理解を図り、教職員が協働して児童の自己肯定感・自己有用感の醸成に努め、一人ひとりを大切にされた教育の具現化に努めた。 ●行事や会議、校務分掌を見直し、組織的に校務を行える体制を整える。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○主体的・対話的で深い学びの授業実践を目指し、形態を工夫しながら研究授業・協議会を行った。 ●校内研修の充実を図り、授業力・学力向上に向けた研修体制を構築する。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○登校後の健康観察、定期的な手洗い・うがいを徹底し、組織的な健康管理と感染防止に努めた。 ●危機管理マニュアルに基づく共通理解・共通行動を徹底する。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報の取り扱いについて共通理解を図り、個人情報の適切な管理・保護に努めた。 ●複数の視点で適切な施設管理を行う。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○スクールパトロール隊等と連絡を取り合う機会を設け、児童の様子について情報共有を図った。 ●地域の人材・施設を授業においても有効活用する。
	⑥幼保小中連携	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・中学校との連携 ・校内研修の充実	B	○小中の児童生徒が相互に交流できないなかで、部活動体験や美術作品の交流、卒業児童の情報交換等を行った。 ●計画的な交流を実現する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じた教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数が少ない中で、教育課程を編成し直し、授業時数の配当を適切に行うことができた。 ●15年間を見通した教育課程の更なる充実を目指す。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律の見直しを図るとともに『聴く』指導を徹底したことで、落ち着いた学習に取り組む児童が増えた。 ●主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善を行う。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業により、道徳教育についての理解を深めた。 ●教育活動全体を通して道徳的実践力をさらに育成する。
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任とALTが連携し、ICTを駆使しながら活気のある授業を展開することができた。 ●担任が中心となって授業を実施し、中学校英語との円滑な接続を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に活動する場を設定することで、望ましい人間関係の形成が図られた。 ●年間指導計画の改善を図り、学級活動やクラブ活動をさらに充実させる。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人材交流ができない中、指導計画を見直し、児童の興味・関心に沿った学習家育働を行った。 ●年間指導計画を見直し、児童や地域の実態に沿った課題を設定する。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりを大切にする生徒指導を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めた。 ●共通理解・共通行動の視点に立った、組織的な生徒指導体制の確立。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間を中心に将来の目標や職業について考え、目標達成に向けた具体的な取組を考えさせることができた。 ●系統的なキャリア教育を推進する。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・保護者の気持ちに寄り添い、個別の指導を計画・実施し、一人一人を大切にしている教育を推進した。 ●児童への指導・支援が不十分に感じる場面があり、児童に配慮した共通理解・共通行動を実施する。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭を中心に、学校図書館や中央図書館サービスの活用を図った。 ○各学年、学校図書館を利用した学習に取り組んだ。また、読み聞かせを月に1回以上行った。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業等で、ICT機器の積極的・有効的活用に努め、児童の学習意欲の向上に努めた。 ●SNS、ゲームアプリへの課金等、児童の情報モラルの意識を向上させるための指導が必要である。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権週間の取組や道徳の授業を中心に、人権感覚を大切にした授業作りを行うことができた。 ●各教科との関連をより意識した人権教育を推進する。 	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①ユニバーサルデザイン	・ 授業のユニバーサルデザイン化 ・ 環境におけるユニバーサルデザイン	B	○児童が集中して学習に取り組めるように黒板付近に掲示物を貼らないなど、環境のユニバーサルデザイン化に努めた。 ●児童の実態に沿って教材を工夫し、学習内容の焦点化を図ることで、「わかる」「できる」授業展開を行う。
	②日本語指導	・ 日本語指導の充実	B	○日本語の習得が必要な児童一人一人に個別の指導計画を立て、習熟度に合わせた指導を行った。 ●学習の進度に差が出てしまい、学習内容を理解するまでに時間がかかる。
	③教育環境の整備	・ 心潤う教育環境の充実	A	○年度当初、特別教室や準備室を中心に整理整頓、清掃を行い、児童が活動しやすく、心潤う教育環境になっている。 ○老朽化した箇所や危険箇所を計画的に修繕していただいた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・ 校舎内外の教育環境が整備され、児童がいきいきと活動することができている。
- ・ 掲示物、ロッカー、机の中などの使いかたを明確にし、教室内の学習環境を統一かしたことで、児童が落ち着いて学習に取り組むことができている。
- ・ 学習動画や入学に向けての説明動画を配信したり、学校日より等で児童の様子を伝えたりしたことで、学校評価「学校は、学校日より、ホームページ、メール等で積極的に情報公開(発信)をしている。」の項目で、保護者の93%が当てはまると答えている。
- ・ うがい・手洗い、マスクの着用、毎日の検温・健康観察を徹底し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。学校評価「学校は、子供たちの安全や健康に配慮している。」で、保護者の97%が当てはまると答えている。

6 次年度の改善策

- ・ ねらい(意図)をもった学習活動を、効果的な場所に位置付ける。い(一生けん命)な(なるほど)り(理解)に加えて、(ぎ)疑問を加えて、授業で振り返りを行う。
- ・ 児童と信頼関係を構築した生徒指導を行うため、生徒指導委員会だけでなく校内全体で共通理解を図り、積極的生徒指導を推進する。
- ・ 教職員事故防止を徹底するため、毎月の倫理確立委員会を計画的、継続的に実施する。実施形態をワークショップ型にし、それぞれが自分の事として考える時間を設定する。
- ・ ハンカチやティッシュペーパーの準備等、児童が主体的に衛生面を考慮し、学校全体で継続的に感染症拡大防止に努める。